

ねいの里 ホオホオニュース



ロシア沿海地方との渡り鳥共同調査

(中田 達哉氏)

ねいの里のバードマンション

ねいの里のバードマンションでは子育てや巣立ちの時期となっていてヒナの成長にあわせ色々な大きさの虫を運ぶ親鳥が見られます。しかし、毎年この頃になると巣箱を利用する野鳥や水辺の樹木に産卵に集まるモリアオガエルを狙って天敵のアオダイショウやシマヘビが出没してきます。以前はいくつかの巣箱が被害にあいましたが今ではヘビ返しのおかげでヘビによる被害は無くなりましたが、同じ野鳥のカラスとスズメに困っています。カラスはどうして巣立ちを知るのかヒナが巣からでるのを待ち構え、飛び出したところをさらっていくし、スズメは住宅難（他に空室がある）か、いじめか、今年はシジュウカラが子育てしている8号室を占領しようとしてか、執ように争い4羽の犠牲が出て1羽は雄親でした。いまは雌親が餌運びをしていますが無事巣立つか気になります。一日中見張っておれるわけでもなく、食物連鎖や自然の営みと理解しつつも何か名案があればと思っています



吉住窯のひとり言 僕、吉住窯がお伝えします! 連載 - 5

V. 炭の構造・機能

炭は、かつてはコンロや火鉢で食べ物の煮炊きや暖房などの燃料として多く使われ、40年ほど前までは婦中町にも炭を専門に販売する炭屋さんがあったそうです。しかし、最近ではバーベキューの燃料としてホームセンターの片隅で見られる程度で、一般に使われる量は著しく少なくなっているようです。

炭は燃料としてだけではなく、その特性上いろいろなところで使うことができるようで、それは炭の構造とその機能によるのだと言うことだそうです。

炭の構造とは、炭は元の木材と同じ様に、縦にも横にも通じる細いストローを束ねたような構造になっているようで、ストローの径は数ミクロンから数百ミクロンで、内側の壁の表面積を測ると炭1g当たり300㎡(200畳間ほど)もあるそうです。

この表面積の広い炭の孔に、あらゆる物の分子が持っている引力によって吸着が起こる事で、ガスや有機物が吸着するそうです。これを、専門的は言葉で物理吸着と言うそうです。その他に化学的性質による化学吸着や微生物が孔に入り込み住み着き、その力で特定の物を吸着したり分解するのだそうです。その結果、有害ガスの除去や汚水の浄化、あるいは畑の土壌改良に活用されるのだそうです。

このように炭は目に見えないところで大きな力を発揮する事ができ、地球に優しい物なのだそうで、僕の事はまんざら捨てたものではないと、一安心しております。今後も僕を可愛がって下さい。

活動ふりかえり

トンボ・水生生物観察会 (平成19年8月4日)

フィールド整備補助 (平成19年9月1日)

自然塾の活動に参加して

フィールド整備補助作業って何をするのかな。知力も体力も衰えはじめた六十代の自分にもできるかなと不安な気持ちで参加した。

伐採されて途中まで運ばれている木を素焼き小屋の近くへ積み上げる作業とすでに積み上げてある木の場所を移動する作業であった。私の参加した作業は木を移動させる作業の方である。木の山をくずし、新たな場所へ積み上げて行く。黙々と手から手への作業である。手にしている木は、薪として使われるものである。

子供の頃七輪に炭をおこして煮焼きし、かまどに薪をくべてご飯を炊いていた生活が思い出された。昔は当たり前であった木の利用が、生活のスタイルの変化により忘れられていくのは心ざみしいことである。薪や炭の使い方、今の子供たちに何とか伝えていきたいものである。単に郷愁と片付けたくないと思った。

作業が終わり、炭焼き小屋の広場のステージ部分が広々となったのを見ると不安な気持ちで参加したことも忘れこの活動に参加できてよかったと思った。

楽しいクマ学～秋編～「くまが出た!」、ビオトープづくり (平成19年9月29日)

里っこ山っこ
にっこにこ

「秋を彩るトンボたち」

ジュニアナチュラリスト 中田達哉 君

今回は、ジュニアナチュラリストでトンボの達人で中田達哉君に「ねいの里の赤トンボ」について教えてもらいます。

ねいの里のフィールドは、四季を通じ、野鳥をはじめ貴重な野生生物や植物が観察できます。

秋を彩るトンボたち

ねいの里の水辺では四季を彩るトンボたちを観察することができます。今回は秋のトンボ観察スポット、ハッチョウトンボの池周辺の“赤トンボ”について書いてみました。

ハッチョウトンボの池は湿地帯になっています。そのため池に卵を産む大型のヤンマ類はほとんどおらず、天敵が少ないため小型のトンボ類が多く発生します。特に秋は赤トンボとされている“アカネ属”のトンボを多く観察することができます。日本一有名な赤トンボのアキアカネ、羽に黒い斑点のあるノシメトンボ、顔に大きな眉のあるマユタテアカネ、中には県内ではほとんど見ることができないマイコアカネという舞妓さんのように顔の白いトンボもいます。

今回紹介した赤トンボ以外にもハッチョウトンボの池周辺ではたくさんの種類の赤トンボを観察することができます。ねいの里におこしになった時はぜひ探してみてください。

自然塾の会 (ねいの里ホームページで活動紹介しています。)

毎月第1土曜日が活動日です。

塾の会活動日の参加予約はいりませんが、ねいの里の行事は予約が必要です。

お気軽にねいの里へお越しください！ (都合のよい時間だけの部分参加も歓迎です。)

昼食は各自ご持参ください、炭焼き小屋の囲炉裏をかこんで食べましょう。

11月3日(土)	12月1日(土)	1月5日(土)
○ 午前10時～12時 「木の実をあつめてクラフト遊び」	○ 午前10時～12時 「落ち葉ベット・焼き芋会」	○ 午前11時半～ 「おぞうに会」

参加者/定員 名	参加者/定員 名	参加者/定員 名
----------	----------	----------

■ お 願 い ■

新年度の会員継続手続きをお願いしています。

Stop! ヒナの持ちかえり

小鳥たちの子育ての季節です。

鳥獣保護センターに持ち込まれる鳥で一番多いのはツバメなどの小鳥のヒナです。巣から落下した場合は巣に戻して下さい。

持参する方は事前にお電話が必要です。

ねいの里行事案内

お電話でお申込みください。
詳細はHPで紹介しています。



10月14日(日)
9:30～13:00【ねいの里】

キノコ狩りとキノコ汁を愛でる (定員:300名)

恒例となったキノコ狩りを行い、秋の味覚を味わいます。食べられるものとそうでないもの見分け方のほか、自然界での役割を学びます。

12月2日(日)
9:30～11:00【ねいの里】

キノコづくりにトライ (定員:30名)

シイタケなどのキノコの菌を原木に植える作業「菌打ち」を体験し、キノコ類ができるしくみを学習します。

- ねいの里キノコ写真展 9月1日(土)～10月22日(月)
- ネチャーフォト展1 ナチュラリスト協会写真展 10月24日(水)～11月19日(月)
- ネチャーフォト展2 自然塾の会写真展 11月21日(水)～3月17日(月)
- 春の七草を愛でる(七草の頒布:100セット) 1月4日(金)～1月6日(日)
- ナチュラリストの自然解説で野外観察 たのしさ倍増!
11月3日までの土日・祭日の10:00・13:30・15:00～ 展示館前から出発します。

発行 生き物ふれあい自然塾 塾長 湯浅純孝

〒939-2632 富山県富山市婦中町吉住1-1 自然博物館ねいの里内

Tel 076-469-5252 / メールアドレス shizen@toyamap.or.jp

ホームページ <http://www.toyamap.or.jp/shizen/>

ふくろう通信

第7号
2007年10月6日
生き物ふれあい自然塾



今日のふくろう先生

新庄 康平君 (ジュニアナチュラリスト)

カタツムリと私

この時期、雨が降った後に家の周りの塀などでよくカタツムリを見かけます。でも僕の住んでいる家には皆さんが今思い浮かべたようなカタツムリは残念ながらいません。

ですが、よく探してみると意外にも三種類ものカタツムリが家の庭にいたのです。カタツムリは結構種類が多いのでまだ一つしか種名が分かっていませんが、こんな庭にもいるのだなあと思いました。

今の話を知って「えっ?カタツムリってそんなに種類があるの?」と思わず言ってしまうようになった人がいます。実は人目に触れることがあまりないだけで山に行ってみると見たこともないようなカタツムリだって見つけることができます。

僕がカタツムリに興味を持ち始めたきっかけは、ねいの里の湯浅館長と山へカタツムリを探しに行った時でした。その時見つけたカタツムリが今まで見てきたカタツムリとは違って殻の形が卵型をしていて、こんなカタツムリがいたんだなあと感じたことがきっかけになりました。

このカタツムリはヤマタカマイマイといって、富山県では希少種となっていました。ねいの里で保護増殖し保全しようということで幾つもの個体をでんでん沢に移しました。

でも移した時以来、姿を見ていません。もし機会があったら少しでもいいので注意して、でんでん沢の観察路を歩いてみて下さい。どんなカタツムリか見たい人はねいの里の展示館に写真があります。

ねいの里には他にも元々生息していたカタツムリもいます。例えば、体が真っ黒で殻が茶色く光沢のある環境省の絶滅危惧種に指定されているココロマイマイ(写真)という珍しいカタツムリもいます。皆さんもカタツムリに興味をわいたなら、自然観察がてらに身近にはどんなカタツムリがいるのか、倒木や石の下、落ち葉の下をちょっと探してみたいはかがでしょうか。



自然情報 (ねいの里のみどころ12月・1月)

オオガハス	ミヤマクワガタ	ショウジョウトンボ
2000年の眠りから覚め、水生庭苑をいそいそと歩きます。	クヌギやコナラなどの樹液を求め集まります。	全身真っ赤で、水生庭苑で縄張りを守る様子が見られます。